事業活動を通じた成果と課題、モニター評価および検討の方向性について

①　活動内容の広がり、②新たな関係性の構築、③事業の継続的な展開、④団体の自立

○主な成果、●主な課題

評価の視点	評価のポイント	評価欄	主な成果と課題	県民会議モニター評価	検討の方向性
① 活動内容に広がりや深まりがみられたか	参加者数の増加が見られたか	A 7 B 10 C 2 D 0	○食糧交通費補助による参加率の向上 ○県の助成を受けている事業という信頼性による参加者の安心感 ●高齢化に伴う参加者数の減少	◇団体のＰＲ不足が参加者が伸びない一つの要因。参加者の募集方法・内容を申請時に聞き取ることも検討 ◇参加者（会員）の高齢化から、増加より現メンバーで細く長く取り組む団体も	□活動内容の広がりや深まりに繋がる制度設計は考えられるのか □活動内容の広がりや深まりは、どの程度重要な要素か（参加者数の増加・参加者層の広がり・実施箇所の広がり・事業メニューの広がり）
	参加者層（年齢層や地域分布など）に広がりや深まりが見られたか	A 3 B 7 C 8 D 1	○炭焼きなど、家族単位での参加を呼びかけ、幅広い参加者が ●ホームページ等による参加者募集に対し、申し込みが無い	◇大学連携やＨＰ活用、新聞掲載などにより、一部の団体において参加者層に広がり ◇平日活動等により現役世代や他地域からの参加に限界	
	事業実施箇所に広がりや深まりがみられたか	A 8 B 8 C 3 D 0	○当初は「点」でしかなかった活動が補助により「面」に ○H21に協議会を設立 ●認定講師や認定地域ということが学習会開催の問題	◇実施箇所の広がりには、地域と直接かかわりのある森林組合等との連携が不可欠。	
	事業メニューに広がりや深まりがみられたか	A 10 B 5 C 4 D 0	○手法等に関する有識者のアドバイス ○資機材の購入による作業効率の改善 ●間伐・搬出・有効利用のための作業等「費用対効果」を望めない作業だけを行っていて良いのか	◇事業メニューは増えているが人員が追いついていない ◇調査研究事業では事業メニューが固定化している。 ◇身の丈サイズのことをやっていればよいという団体もある	
② 新たな関係性が構築されているか	補助制度を通じて様々な主体（他団体や基礎自治体など）との関係性が新たに構築されたか	A 3 B 10 C 4 D 2	○県の助成を受けている先輩団体に色々な意見を聞ける機会が出来た。 ○行政とのつながりや情報提供は意義があった。 ●公開プレゼンを通じ、他団体の活動状況を知るも、関係性構築には至らない。	◇交流会を通じて知り合った団体と協力した事例が出てきている一方で、新たな関係性は構築されていない、交流の必要性を感じていない団体もある	□公開プレゼン・中間報告会・県HPが新たな関係性を構築するための仕組みになっているか □新たな関係性を構築する他の仕組みは考えられるか
③ 事業が継続的に展開されているか	中長期的な事業計画があるか（補助終了後の事業計画があるか）	A 6 B 9 C 3 D 0	○地域の課題解決、地域資源の発掘・再生によるグリーンツーリズムを計画の柱に活動を拡大予定 ○会員が会の設立目的や整備の必要性を理解しているため、継続は可能 ●ボランティアは無料という観念があるので、事業費自体の捻出も難しく、規模を縮小せざるを得ない	◇具体的な計画を策定している団体、構想はあるが具体的な計画はない団体、計画の目的に疑問がある団体などがある	□団体が中長期的な計画を策定するよう申請書類などを見直す必要はあるか □中長期的な促進する仕掛けはないか。ex)補助延長などのインセンティブ
③ 事業が継続的に展開されているか	補助が終了した場合の事業継続の見通しは立っているか	A 7 B 9 C 2 D 0	○物品は昨年度購入したものを用い、会費収入で交通費や事務費等は賄う。 ○活動の場を県や市の施設を利用することで、経費の削減。 ●参加費や炭販売で収入を得ているが、自転車操業 ●収入が無い中での活動は特定の個人に負担を強いる事に「特定非営利活動」そのものの考え方を変える必要も	◇資機材などを購入し労力の軽減を図れば事業の継続は可能 ◇地域住民の協力を得ることが、事業の継続性には必要	□資機材の継続購入を認めるか □地元住民の理解を得るにはどのような仕組みが考えられるか □採択の段階である程度見通しが立っていなくてよいのか
④ 団体の自立につながっているか	当補助金以外の活動資金は確保出来ているか	A 4 B 8 C 5 D 0	○生産物の販売収入で事業を継続していく ●会員は発起人以外に少なく、発起人の出資によって資金を確保している	◇炭焼収入・シイタケ販売・講師謝礼・他団体補助などの収入源があるが、様々な資金確保の手段を講じる必要	□当補助金以外の資金確保を促すため、10/10補助を見直す必要はあるか □HPやニュースレターの広報支援以外に、制度として団体の会員数を増加する仕組みが考えられるか。 □団体の自己資金を拡充するための仕掛けはないか
	会員数は増加しているか	A 5 B 4 C 8 D 2	○着実にファンが増えている。 ○関心度の高い里山を中心に参加を呼びかけ、低年齢化を進める ●会員の固定化・高齢化 ●定年組の参加に期待するしかない	◇多くの団体で高齢化が進み、会員数は伸びていない。人材集めの窓口の必要性も感じるが、意欲のあるメンバーだけでやるのも一つの方法。	

A…概ね達成できている　　B…どちらかといえば達成できている
C…どちらかといえば達成できていない　　D…達成できていない

⑤水源環境の保全・再生に資する事業か

○主な成果、●主な課題

事業区分		評価のポイント	評価欄	主な成果と課題	県民会議モニター評価	検討の方向性
特別対策事業区分	森林の保全・再生事業（間伐材の搬出事業を含む）	水源かん養機能の高い森林に近づいているか（下層植生の回復、林内が明るくなった、皆伐など過度な整備の有無、など）	A 4 B 9 C 1 D 0	○倒木により、地面がえぐられて草木が生えていないような荒廃地が、少しでも改修に向かっている ○林内に光が差込み、下層植生は回復 ●整備箇所を確保していくのが難しい現状、行政サイドとの連携を取っていきたい。 ●人工林でありながら管理放棄が著しく、手入れによっては皆伐やむなしという所も ●山全体からすればボランティア実施できるのはほんの一部	◇モニターした箇所は概ね水源かん養機能の高い森林にな ると思われる。	□整備手法について、一定程度の水準を定めるか □中長期的視点に立った整備（複数年度）を認めるか
		間伐材を有効に活用したか	A 7 B 3 C 1 D 1	○炭焼を行い年間5,000キロの炭を販売。 ○間伐材は流土の防止柵や薪にくぬぎ等はほだ木にして販売 ●間伐材の搬出に労力の80パーセント以上を費やすため、有効活用には限度がある。	◇ログプランター・炭・シイタケ・チップ・チェンソー アートなど有効に活用している。	
		登山道整備等を実施することで、歩きやすい登山道とするなど水源環境の保全に寄与したか				
	河川・水路事業	事業実施後の河川・水路が親しみやすいものとなっているか	A 0 B 1 C 0 D 0		◇水源環境の保全・再生という目的に合った整備が必要	□左記の評価を踏まえた審査基準・事業メニューなどの見直しを行う必要があるか
		水辺の生態系に配慮した事業となっているか	A 0 B 1 C 0 D 0		◇樹林を残した河畔林として水源環境を保全した方が良い のではないか。	
普及啓発・教育事業区分		水源環境の保全・再生の必要性を伝えるプログラム構成になっていたか	A 5 B 2 C 0 D 0	○環境科学センターなどの資料を使い、またメンバーが講習を受けることで専門的な知識を得ることができ、プログラムに生かされている。 ●色々資料を取り揃えて訴えてきたつもりだが、必ずしもシステム的なプログラム構成にはなっていなかったかもしれない。	◇イベントを通し、一般県民へ環境のことを伝えている ◇水源環境に関する普及啓発・教育事業として、適切なプ ログラム構成になっているか不透明	□水源環境保全の観点から普及啓発・教育事業に何を期待するのか □水源環境に関する普及啓発・教育事業として、適切なプログラム構成になっている事業を採択するよう　審査基準などを見直す必要があるか。 □水源環境に関して多くの人の理解が得られるような普及啓発・教育事業を採択するよう審査基準などを見直す必要があるか。
		普及啓発・教育事業が多くの人の理解を得られたか	A 6 B 0 C 1 D 0	○６名のメンバーで30～50名の参加をいただけるのは県の助成事業というのが一番の理由 ○「菜の花まつり」を開催し、横浜・川崎からも多くの訪問者があり、水源環境に関する資料等お渡しし、同時に法人の活動を説明し、理解をいただくよう努めている ●事業の広報を広域的に出来ず、参加者の獲得に限界があった ●しいたけや燻製など付加価値をつけてのイベントでないと人は集まりにくい	◇里山の現状を知ってもらう意味では大きな効果がある が、域外の参加者増には結びついていない。 ◇チェンソー講習会を地元住民向けに開催してい る。範囲は狭いが、それも良いのでは。	
調査研究事業区分		水源環境の保全・再生を図るうえでの基礎データとして有用性があるか	A 2 B 0 C 0 D 0	○窒素化合物を含んだ雨が降り注ぐことが原因で富栄養化が起こった例は他県でいくつか報告されており、今回の調査データは十分に有効であると考えられる。 ○水質を客観的な数字で表すことによって、評価、比較がしやすくなった。	◇基礎データとしての有用性は十分ではなく、専門的知識 を有する者の技術指導が必要。	□水源環境保全の観点から調査研究事業に何を期待するのか □データの有用性を確保できるよう審査基準を見直す必要が あるか。 □研究結果の波及性を担保できるよう審査基準を見直す必要 があるか。
調査研究事業区分		調査研究結果が広く活用されるためのPRを行っているか	A 1 B 0 C 1 D 0	○HPでデータを公表し、森林に関するイベントにも参加している。 ●ワークショップ等のみの報告であり、特にPR的な活動は行っていない。	◇ホームページ、イベントで一定のPR活動を行っている。	

A…概ね達成できている　B…どちらかといえば達成できている
C…どちらかといえば達成できていない　D…達成できていない

利便性等から見た成果と課題、モニター評価および検討の方向性について

①利用しやすい支援制度となっているか

○主な成果、●主な課題

評価項目	評価欄	主な成果と課題	県民会議モニター評価	検討の方向性
申請手続き	A 8 B 7 C 3 D 0	○補助申請手続きとしては申請者の立場に立った手続である。 ●血税を利用するという点では納得出来るが、もっと敷居は低くしてほしい。 ●申請書類が多く、詳細内容の記載が負担になる。 ●書類作成の負担が本来の活動に影響している部分もある。	◇事務手続きの簡素化について一考が必要	□申請書類については、審査等に必要な項目・内容が網羅されているか □他の類似の補助制度等と比較して、過度な要求になっているか
審査方法	A 6 B 8 C 2 D 1	○実際にプレゼンテーションを行い、事業の有無を判断する良い方法。 ●公開プレゼンは勘弁してほしい。 ●新規審査は現行どおり。継続申請は書類審査のみ。 ●１次、２次選考基準の明確化を。 ●大綱など様々な解釈が成り立つので、ケース説明等で補って欲しい。 ●プレゼン時間が短い。書類審査段階で、詳細な説明が必要な団体及び数団体をランダムに抽出し時間をかけたプレゼンを。	◇書類だけで判断するのは理解不足。現場を見ることも必要 ◇現場における中間審査(中間評価)も検討してはどうか ◇事前審査でモニタリングすることも必要 ◇申請団体の熱意を汲み取れるような審査方法も考慮すべき	□申請された事業を審査するのに十分な仕組みになっているか □制度のねらい等と照らし合わせ適正な選考基準が構築されているか □より効果的・効率的な審査手順にしていくことはできないか □申請者から見て、納得のいく審査方法になっているか
対象事業 (※)	A 3 B 3 C 4 D 3	○事業区分現行通り ●各種団体に合わせた支援体制・内容・支援金額が用意されるべき。 ●整備後の拡大造林や地ならし備品も補助金対象に検討してほしい。 ●間伐材の搬出事業に関して、搬出数・活用策・活用率の評価基準を定めて欲しい。 ●荒廃農地の復元も支援対象とされたい。 ●事業活動を推進する中で出る間伐材等の活用について、すべて対象外とせず目的によっては補助対象にして欲しい。	◇水源環境保全・再生に資する事業か明確な基準が必要	□制度の目的と照らして、どこまで支援するのが適切か □制度のねらい、性格と対象事業がマッチしているか □多様な団体活動に対応した仕組みとなっているか
補助額	A 5 B 9 C 3 D 1	○審査方法・補助額・補助期間については止むを得ない範囲と理解しています。 ●初年度と次年度は同額程度で総額80万円に。（森林） ●必要物品が購入できないため、30万円にしてほしい。(普及) ●発足間もない団体の支援が必要であり、支援団体拡大のため予算の増額を要望します ●資機材の購入について、効率的に作業するため限度額を引き上げて欲しい。	◇限られた予算の範囲で補助額を決定すればよく妥当 ◇事務経費などの直接事業費以外の支出科目を認めては	□制度の目的と照らして、どこまで支援するのが適切か □類似の他の補助制度と比較して過度、過少となっていないか □資金面以外のバックアップの仕組みでカバーできないか
補助期間	A 6 B 8 C 2 D 2	○審査方法・補助額・補助期間については止むを得ない範囲と理解しています。 成果 ●調査研究、普及啓発事業は息の長い事業が大半だと思うので、３～５年は補助して欲しい。 ●大々的ではなくても、継続的に財政支援をして欲しい。 ●森の再生など１～２年で出来ない。 ●５か年で結果判定は難しい。10年単位での事業を望む。 ●補助期間は最大３年、３年間の目標、年度ごとの評価点検が必要。 ●補助期間は１期２年あると年度比較や改善処置が出来る。	◇団体により延長を考慮 ◇長期プログラム制の導入（３年間事業など） ◇２年間で自立の道を探り、必要に応じ資金面以外のバックアップ	□制度の目的と照らして、どこまで支援するのが適切か □類似の他の補助制度と比較して過度、過少となっていないか □資金面以外のバックアップの仕組みでカバーできないか
その他 (　　)		他の行政や団体での助成など幅広い視野での情報整理・提供を行って欲しい。	◇チェンソー講習会の開催 ◇ボランティア保険の改善 ◇専門家によるアドバイス制度 ◇概算払いの導入	□制度の目的と照らして、どこまで支援するのが適切か

※水源環境の保全に資する事業にもかかわらず、対象外となってしまう事業がないか等

A…概ね満足できる　　B…どちらかといえば満足
C…どちらかといえば不満　　D…不満

②水源環境の保全・再生に係るネットワークが構築出来ているか

○主な成果、●主な課題

評価項目	評価欄	主な成果と課題	県民会議モニター評価	検討の方向性
交流会 （11月開催）	A　4 B　6 C　6 D　1	○全体交流会の他に事業区分または周辺地域の活動団体間交流会が開催できればネットワーク構築に役立つ。 ○助成対象者以外の方ももっと参加していただきたい。 ●調査研究事業の場合、それぞれの研究が大幅に異なるため、連携が難しい。 ●開催すること自体が目的となっていないか。 ●じっくり話や整備方法を検討したり学習していく事も大切。 ●ネットワークを構築するには、年１～２回の交流会ではあまり効果がない。	◇交流会の時期・内容に関して工夫が必要。	□ネットワーク構築にあたっての交流会の位置づけ・役割は □交流会の時期・内容に関して工夫を行う。
公開プレゼンテーション（２次選考会、３月開催）	A　4 B　6 C　1 D　2	○補助金がどのように使われるか県民に公表できる場でもあり、県民として考えた場合でも有効。 ●人民裁判ばりの公開プレゼンテーションからは県民主体の活動を支援する姿勢は見られない。 ●実績報告と次年度の申請を別々にした方がより内容が明確になる。 ●２～３分程度の報告で何が語れるのか。団体を手玉に取り、馬鹿にしている。	◇実績報告と次年度申請を分けるべき。	□公開でプレゼンテーションを行う目的・意義は何か。それに見合った仕組みになっているか。
県ホームページ	A　2 B　6 C　2 D　2	○大変行き届いていると評価します。 ●県のホームページを見るときにはアジェンダ登録したメールを見てから参照する機会が多いので、登録者制度があればもっと閲覧する回数が増えると思う。	◇掲載箇所が分かりにくい。団体紹介に工夫が必要。	□HPの役割は何か。それに見合った内容となっているか。 □運用面に関して改善の必要はあるか。